
さくら

さくら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さくら

【Nコード】

N4847V

【作者名】

さくら

【あらすじ】

主人公玲子が一年前に逝ってしまった恋人を思い出している話です。

逝ってしまったのはさくらの咲く季節。

玲子の生まれた季節です。二人の大事な日になるはずでした。

(前書き)

思いつくままにあらあらと書いた話です。

また今年も桜の季節がやってきた。

あの人と出逢った…。

私は花の中でも桜が一番好きだった。

あの人も好きだって言ってくれた。

君と見る桜は綺麗だと…。

昼間見たときと、夜見たときと違う顔を見せてくれるから。

でも、いまは一番嫌いかも知れない。

だって、毎年一緒に見ようと約束したあの人が逝ってしまったから…。

どうして…。

急に逝ってしまったの。

私を残して…。

出来ない約束はしないでよ…。

あの日は私の誕生日だった。
話したいことがあるからと…。

約束したレストランで待っていたのにいつまでたってもあの人はや
って来ない。

心配して、電話してもコールはするけど、出てくれない。

どうしたんだろう。

あの人から逢いたいって、約束したのに…。

何時間待っても来ないから、家に帰った。

その日は眠れなかった…。

付き合って3年になるけど、こんなこと、初めてだったから。

何があっただろうか。

もしかして、他に好きな人が…！

話したいことって、そういうことなのかしら。

でも、それならなぜ来なかったのかしら。

分からないわ…。

連絡なしでドタキャンするような人じゃないのに。

真面目過ぎる人だから。

私が時々からかいたくなるくらい。

ああ…、何の話しか聞いておけばよかった。

逢ったときに話すよ。
電話で言うことじゃないから…。

そう言うから聞かなかったけど…。
聞いておけばよかった。

結局、聞けずじまいだったから…。

あの日から3日後、突然、あの人のお母さんから電話があった。
本当に突然に…。

その内容が信じられなかった。
あの日、交通事故に遭って逝ってしまった…。

嘘、

嘘、

嘘だ。

そんなことあるわけない…。

だって、あんなに元気だった人が…。

でも、信じるしかないの…。

だっってお葬式の日に呼ばれたんだもの。

あの人のお母さんは泣いていた…。

ごめんなさい。

もっと早く伝えないといけないのだけど、あの子に止められて…。

心配をかけたくないから。

まだ伝えていてはないけれど、将来の僕の奥さんになる人だから…。

どうして。

こんな形では聞きたくなかった…。

直接あの人の口から聞きたかったのに…。

それに、お母さんから渡された指輪…。

綺麗なダイヤモンドの指輪…。

あの子があなたに渡すつもりで買ったものだから、形見だと思って受け取ってちょうだい。

こんな、

こんな、

綺麗な指輪…。

肝心なあの人がいないのに、受け取れないよ…。

あの人から貰ったらどんなに嬉しかったか…。

この涙は、

悲しい涙…。

嬉し涙だったなら良かったのに…。

私は、

あの人が好き。

誰よりも…。

心配をかけたくなかったなんて…。

優しい人だったけど、憎らしい…。

少しでも側にいたかったのに…。

こんな私の気持ちかわからないなんて…。

あれから一年、またさくらの季節がやって来た。

あの人はいないのに、さくらは綺麗に咲くのね…。

あの人と出逢った季節。

そして、私の生まれた季節。

あの人を失った季節。

いつか、このさくらがまた好きになれることがあるかしら…。

好きになったら、あの人を忘れたってことかな？

ううん、きっと忘れないわ…。

だって、あんなに好きだった人だもの。

ううん、いまでも大好きな人…。

こうして、目をつむったら、あの子の笑顔が、言葉がいつでも蘇ってくる…。

目を開いたら消えてしまっけど…。

「…さん、玲子さん。」

誰、私を呼ぶのは…？

目をそっと開くと逝ってしまったあの子と同じ顔の人が…。

いえ、違うわ。

よく似ているけれど、この人はあの人の二つ違いの弟。

「また、兄貴を思い出していたの？もう一年だよ。」

彼によく似た顔で皮肉そうな声で尋ねます。

私は寂しそうに笑って、

「ええ。まだ忘れられないみたい。」

「そつか…。兄貴も罪なことをしたもんだね。」

「罪だなんて…。いい思い出をたくさんもらったわ…。あ、いけない。早く行かないと、遅刻するわよ！」

そういうと私は思わず、あの人の弟を急かして走り出しました。

「なんだよ。玲子さんが思い出に浸っているせいじゃないか…。」
不満げに彼の弟はぶつぶつ言いながら、一緒に走り出しました。

「ちょっと、会社に着いたら玲子さんは止めてよ。」

「なんで？」

「当たり前でしょ！あなたは新入社員で、私は先輩なのよ。」

「いいじゃん。そんな細かいこと。」

口を尖らせてあの人によく似た顔であの人の弟が言います。

「良くないわよ。よくそれで入社試験通ったわね。」

私は睨みつけるように言い返します。

「そりゃあ昔から要領だけはいいですから。」

あの人の弟はニヤリと笑って答えます。

それを聞いた私は、あの人と大違いね。

真面目だけが取り柄だったあの人。

この弟と本当に兄弟なのかしらね。

でも、この生意気な弟といるとまるであの人が戻ってきたような気になるから不思議よね…。

玲子さん、

ホントは僕、

頑張ったんだよ。

兄貴がいるからダメかもしれないけどあなたと同じ会社に入るために…。

でも、もう兄貴はいない！

期待してもいいかな…。

「ほら！行くわよ。

新入社員、遅刻したら恥よ！」

私は時間がないあまり、あの人の弟の手を思わず掴んで走り出しました。

彼の気持ちも知らずに…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4847v/>

さくら

2011年10月9日23時28分発行